陽春の輝きが増し、恩田川沿いの木々をはじめ、自然界の多くが胎動を始める季節となりました。本日は、ここに保護者の皆様にご臨席を賜り、東京都立成瀬高等学校第四十四回入学式が挙行できますことは、私たち教職員にとり、この上ない喜びであり、厚く御礼申し上げます。

ただ今、入学を許可しました新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんは、9年間の義務教育を終え、高校入試を突破し、晴れて本校の生徒となりました。これまでのたゆまない努力を讃えますとともに、心より歓迎いたします。特に、昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、休校措置等の厳しい環境下で中学校での学びを続け、入試を経て、本日を迎えられることに祝意を申し上げます。

保護者の皆様、御家族の皆様におかれましては、お子様の晴れの姿をご覧になって、感慨もひとしおのことと御推察いたします。心よりお喜び申し上げます。

さて、本校は、昭和五十二年の開校以来、「高い知性と創造力を培う」「広い視野をもち、品格のある人間性を養う」「若さにあふれる健康な身体をつくる」を教育目標に、主体的に自らの人生を切り拓き、グローバルな視点をもって地域及び社会に貢献するリーダーを育成する学校です。

昨年には、成瀬グランドデザインを策定し、日々の教育活動をとおして、思考力や主体性を養い、自立と責任を身に着けながら、次のステップに向けて自己実現を図っていきます。成瀬高等学校での自己実現は、東京都教育委員会から「理数研究校」「英語教育推進校」「海外学校間交流推進校」の3事業の指定に加え、今年度から新たに「進学指導研究校」の指定を受け、4事業を活用したすべての教育活動を通じて具現化されて行くこととなります。

この特色ある成瀬高等学校で新入生の皆さんが学校生活を充実したものにし、自己実現を果たしていくために、心がけて欲しいことをお話しします。

近年アメリカの教育界やビジネス、スポーツ分野において、G R I T (グリット)と呼ばれる力が注目されています。日本語では、「やり抜く力」と訳されていますが、目標に対してひた向きに取り組み、挫折や困難を味わってもあきらめずに努力し続ける「情熱」と「粘り強さ」のことをいいます。そして、人生で成功を決める究極の能力は、才能でも学校の成績でもなく、この「やり抜く力」だということが科学的に突き止められたのです。

それでは、どうやったら、この「やり抜く力」伸ばすことができるのか、アメリカの心理学者でペンシルヴェニア大学のアンジェラ・リー・ダックワース教授の『やり抜く力G R I T ～ 人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける～』からその一部を紹介します。

一つは、自分自身の内側から伸ばす方法です。興味や関心を掘り下げ、高い目標を設定し、それに向かう練習を習慣化すること。今取り組んでいることが大きな目的につながっていると自覚すること。そして困難な状況にあっても希望をもち続けることです。

もう一つは、外側から「やり抜く力」を伸ばすこともできます。それは、教師や先輩、友人など周りの人々が重要な役割を果たすというもので、これこそが学校教育の本質となります。一人だとあきらめてしまうことも、集団であれば切磋琢磨し、もがきながら努力を続けることで進歩につながり、それによって自信がわき、もっと大きなことに挑戦しようという好循環が生まれます。

それでは、「やり抜く力」をつけるには、何が大切なのか、次の4つであるといわれています。

一つ目、困難に立ち向かい、一步ずつでも前に進む、Guts「闘志」

二つ目、失敗してもあきらめず、続ける、Resilience「粘り強さ」

三つ目、自らが目標を定め、粘り強く取り組む、Initiative「自発」

四つ目、最後までやり遂げる、Tenacity「執念」

この4つがG R I T（グリット）といわれるものです。皆さんもこれからの3年間で、「やり抜く力」を身に着け、自己実現を果たしてください。

最後になりましたが、保護者の皆様に一言ご挨拶申し上げます。

本日は、お子様の御入学、誠におめでとうございます。高校三年間は、これからの人生の方向を決定する大切な時期ではありますが、思春期の只中において、悩み苦しむ時期でもあります。私たち教職員は、お子様が、自らが進むべき道を自分の力で切り拓いていけるよう、全力を尽くし支援してまいります。今の社会は子供たちが自分で考え、判断し、失敗や成功を経験するチャンスを奪いすぎていることも確かです。高校時代の挫折や失敗は、取り返しのつかないことではなく、未来の蓄えだと考え、学校と家庭がそれぞれの役割を果たしながらも、相互に信頼し、連携しながら、子供たちの豊かな個性を伸ばしていきたいと思っております。

本日は、高校生活のスタートラインに立った新入生が、失敗と挑戦を繰り返しながら「やり抜く力」を身につけて、三年後、この学び舎から大きく羽ばたいていくことを期待し、式辞といたします。

令和三年四月七日 東京都立成瀬高等学校長 高野 修一